

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3391000159		
法人名	M'sファミリア合同会社		
事業所名	グループホーム ファミリア愛		
所在地	岡山県新見市馬塚57-1		
自己評価作成日	平成29年3月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3391000159-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3391000159-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年4月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は四季折々に美しい彩りを見せる山々と清流高梁川に囲まれたすばらしい環境にあり、また敷地内には菜園があり季節ごとの野菜を職員と入居者の方々が一緒に作り、調理して季節の食を堪能している。  
 家族・地域との交流では、8月の花火見物を兼ねた家族との親睦会、敬老会、クリスマス、忘年会等の催事に力を入れ、親しみのある人間関係を築くこととしている。  
 又、地域との交流を深め、防災訓練、歌謡ショー、作品展にも参加を呼びかけ協力を得ている。ハロウィン、獅子舞などのイベントに、近所の子供達も参加の協力を得ている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

代表者と管理者は職員を大切に、働きやすい職場環境作りに努めている。職員には家族との時間を大切にしたいと考え、仕事中に子どもを連れて来ている職員もいる。子どもは「働くお母さん」の楽しそうな様子と、自分も将来「グループホームファミリア愛」で働きたいとの思いを綴った作文を書いていた。その内容は、働く職員に幸せを運んでくれている。  
 地域の方は大変協力的である。畑に野菜が植えられていない気がつければ、耕して苗を植えてくれる。以前から、事業所で起震車体験を希望していたが、なかなか実現しなかったのを、力添えにより実施された。行事の内容に行き詰まり、何か良い案は無いかと尋ねれば色々な提案をしてくれる等、数を挙げたら切が無いくらい、協力してくれる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員理念を暗唱し毎日の介護に活かしている	理念である「入居者ひとりひとりの方の精神的安定」を目指し、支援に努めている。皆に同じ事をさせるのではなく、多くの選択肢の中からやりたい事をやってもらい、その満足感や達成感は精神安定に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流で防災訓練、歌謡ショー、門松飾り作り等は毎年行っている。今年度は利用者が共同制作したちぎり絵やイベントに使用した手作品、カメラが趣味の利用者の写真等の作品展を行ない、家族や地域の方に見ていただいた。イベントに子供達も参加、協力を得た	「地域の子ども達との交流を深める」ことを目標に掲げ、ハロウィン、獅子舞、起震車体験に子ども達を招待し、参加してもらっている。利用者が黙って外出してしまった時、行事に参加していた子どもが気づいてくれ、連絡をしてくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回新聞発行及び必要に応じて回覧等をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの出来事など地域の方にも理解を得られるよう2ヶ月に1回新聞発行をして配布している	運営推進会議の場で参加者に相談すると、一生懸命考えてくれ、色々と提案をしてくれる。誕生日に実施する行事等、職員だけでは思いつかないようなアイデアを提案してくれる等、協力的である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい意見交換をする また、分からない点については電話などで相談を行っている	市の担当者とは、相談事項に応じてくれる関係が出来ているので、不明点があれば直ぐに問い合わせをしている。しかも丁寧に教えてくれるので心強い。市と協力しながら、介護が必要な利用者の支援に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員が入居者全員の居場所を把握し、拘束防止に取り組んでいる 玄関の施錠は行っていないが、門扉の施錠は行い来訪者にはインターホンで対応している	身体拘束をしないケアの実践をしている。荷物を抱えて「家に帰る」と言われる利用者には、「気をつけて」と声を掛け、一緒について行く等、見守りを徹底している。また、自宅まで連れて行ってあげることもある。気分転換に、出来るだけ外出の機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度のケア会議で虐待防止について話し合い、何が虐待に繋がるか検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対応が必要と思われる利用者がいないため、理解不足で支援できる体制ではない 今後は市民後見人の資格保持者の方に指導を受け、必要であれば活用する		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金や起こり得るリスク、今後の体制、方針について、詳しく説明し同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、なかなか利用されておらず、直接面会時に話されたり電話等で対応している	毎年家族参加が必須の花火大会の日には、面談をしたいので30分前に到着して欲しいと伝え、それぞれの要望を確認している。家族の希望で、別の施設に入所している夫のもとへ面会に連れて行っている利用者もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のケア会議で、意見の交換をしている ヒヤリ・ハットについても話し合う 必要に応じて臨時ケア会議をしている また、常に管理者と職員は提案事項や意見について話し合っている	代表者や管理者は、職員を大切にしているので、何でも言い易い。職場へ子どもを連れていける為、一人で留守番をさせる心配もない。また、事業所内での会議だけでなく、率直な意見を聞くために、外食の場での会議を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間中にも気分転換できるよう休憩時間を確保し、ストレス解消をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には最初3ヶ月程度、管理者と一緒に働きながらケアの技術、利用者との関わり方について指導を行う 一人一人のケアを職員間で統一する為、ケア変更時に研修する(ミーティング・申し送りノート) 希望者は初任者研修(6か月)を受講している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連携チームへの参加を毎回行い、同業者との交流を図っている また川上道子講師や、新見中央病院 福田綾香 理学療法士に来所していただき施設内にて研修・グループワーク等の指導を受ける		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状態を把握するよう努め、本人の求めていることや不安を理解しようと工夫している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況などを確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で必要なサービスに繋げるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリを兼ねてシーツ交換、掃除、ちぎり絵制作等を一緒に行っている。又、喫食事も共にしている 春と秋に花植えを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望や家族に話がしたいと訴えがある等、家族の協力を得て電話で話したり、訪室や外出をしていただいたり、また帰宅援助をすることもある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援を行い、馴染みの場所をドライブしたりしている 本人のこれまでの趣味・サークル・同級生・町内会の仲間の方に会いに行ったり来所していただく	地域の行事に参加する時には、家族や知人へ事前に連絡し、会いに来てもらう。短歌が趣味の利用者は、サークル仲間が来てくれたり、集まりに連れて行ったりしている。帰宅願望のある利用者を自宅へ連れて行き、帰りに親戚の家へも寄ってあげた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごせる時間、気のあった者同士で談笑する場面づくりを職員が調整役となって支援している 洗濯物畳み、ちぎり絵制作など役割活動を通して利用者同志の関係が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等され利用サービスが終了されている方に対し、個別に訪ねて行ったり、必要な点について情報提供したりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声掛け把握に努めて、表情・態度から真意を推し測ったりして意思疎通ができるよう支援している	朝食の時間は決めているが、眠たい時はそのまま寝てもらっている。食事の量も職員が勝手に決めず、利用者が「多くして」「少なくして」と言ってくれるので調整している。利用者には無理強いせず、やりたい事を職員はあの手この手で見つけて、してもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活履歴を把握しながら本人の住んでいた場所、地域などへの外出、地域の方との交流をしながら、その人らしさをこれからの支援の参考にする		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、やりたいこと、できることから取り組み負担にならないよう職員が全体の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日々の関わりの中で、思いや意見を聞き、月1回のケア会議で職員全員で意見交換し、毎月一人一人のモニタリング表を作成し、介護計画に繋げている	毎日、介護記録の目標に沿ったモニタリングを実施し、気になった時は記録をしておく。さらに、各々の担当者に1ヶ月の気付きを書いてもらう。変更時は、両方の記録を参考に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、バイタルサインチェック、食事水分量のほか、日々の暮らしの様子や、本人の言葉・エピソードを記録している また、それを勤務開始の前に確認をしている(記録表・モニタリング表・申し送りシート活用)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の方に出席してもらい、周辺情報や支援に関する情報交換など協力関係を築いている(花火大会・哲西きらめき広場ひな祭り見学など)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用者家族の希望医での医療を受けられるよう家族と協力し通院介助を行ったり、受診の付添いを行ったりしている	事業所の協力医の他、在宅時からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、家族と協力して通院介助を行っている。通院後は、家族から診察内容を教えてもらう。病弱な利用者の場合、入院対応が可能な病院を確保している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医に連絡し、適切な医療に取り組んでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院され退所になるまで職員が見舞うようにしている 入退院時にはカンファレンスにて情報交換する		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ協力医・職員が連携をとり安心して納得した最期を迎えられるよう入所時に終末期のあり方を説明し、同意をいただく(延命治療等) 終末期を迎えられた時、再度家族と話し合いをする	現在は24時間対応の医療機関と連携がとれていない為、入居時に、終末期の対応について説明をしている。重度化した場合は、本人や家族の意向を尊重し、納得した最期を迎えられるように、医師と連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の連絡に従い、指示の基に応急処置を行う(救急車を呼ぶこともある) ケア会議にて訓練を行い、AED装置も設置している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	7月の地域との草刈りの後消防署の方を含め、地域の協力を得て避難訓練をしている 防災用品として3日分の食料を備蓄する(水・乾パン・缶詰等) 起震車体験をする	地区清掃の後、地域の方と一緒に避難訓練を実施している。地域用の非常ベルを鳴らせば、近所に住む首長に連絡が入り、直ぐ駆けつけてくれる体制となっている。市から、ダムが決壊した際は、近くの会社に避難してはどうかと提案してもらっている。	ダムが決壊した場合の対策を、市から提案されている。今後は避難場所へ誘導する練習をする予定と聞いた。実現に期待を寄せる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切にし、自己決定しやすい言葉掛けをしている 個性や守秘義務について十分理解し、尊厳を重視した責任ある行動を徹底している	利用者がたとえ子どものような振舞いをして も、人生の先輩に対する言葉遣いには気をつけている。夜間トイレに間に合わず、落ち込んだり気にしたりしている利用者には、声掛けをしてトイレへ誘導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声掛けをし、表情を読み取ったりして、自己決定できる場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けている 食事・喫食等声掛けするも「今はいいから後で」と言われると少し時間をおいたり、居室に配膳するなど摂取してもらうこともある(調理後2時間以内に食す)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事などオシャレができるよう配慮し、お化粧品などをして楽しく過ごしてもらえるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と共に育てた野菜と一緒に収穫して調理したり、季節感のある料理や入居者の希望を取り入れた献立を手作りで提供している 利用者も職員と一緒に出来る範囲でテーブル拭きや盆拭き、下膳等をしている	畑の野菜を利用者と一緒に収穫し、下処理も手伝ってもらっている。誕生日は、利用者に食べたい物を聞き提供している。時には照明を調節し、ムードある音楽で利用者が若い頃通ったであろう懐かしい喫茶店を演出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と摂取量を把握し嗜好品や食べやすいように個々に合せたきざみ食等の食事形態を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入れ歯の洗浄は確実にやっている また、出来ない方の口腔ケアもやっている (ポリドント・ハミングウッド・口腔用ウェットティッシュ)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心を傷つけないよう身体機能に応じて介助し個々に合せた紙パンツ、パットを使用している排泄チェックを基にトイレに誘導排泄できるよう支援している(基本立位のとれる方はオムツ使用を避けている) 居室でのポータブルトイレ使用	紙パンツを使用していると、排泄の感覚が失われるので、なるべく使わないようにしている。日中は出来る限り排泄チェック表を確認しながら誘導を心掛け、パットも利用しないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを基に牛乳、ヨーグルトなどで水分補給している 毎日2回ラジオ体操、口腔ケア体操、失禁予防体操、転倒予防体操と水分補給を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴してもらえるような声掛け、タイミングを掴み、個々に合わせて湯加減に気をつけ対応している(手浴・足浴・シャワー浴・清拭等)	入浴好きの利用者が多いので、時間を掛けてゆっくりと湯船で寛いでもらっている。一日の入浴支援をしたい人数を決めてしまうと、慌てた支援になってしまう為、予備日を設けてゆったりとした支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、休息してもらい自分の時間を持てるように本人の要望に合わせて支援している 夕方からテレビ鑑賞、談笑などして穏やかに過ごしてもらい就寝できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬をケースに整理し職員が内容を把握できるようにしている 一人一人に対して服薬の方法を決め、全て服用出来ているか確認している(準備のみ・手渡し・飲み込み確認等)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会、行事以外にも当ホームで喫茶店を開催したりして楽しく過ごしてもらう場を作っている 入居前から所属している短歌会を継続している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日、少しの時間でも外出支援、本人の希望を聞き出かけるようにしている ホームセンターへ買い物 別の施設に入所している夫の面会 お弁当を持って野外施設(別所アウトドア)へ近所の喫茶店へ行く	仲の良い二人組が、ほとんど毎日、朝、昼、夕と庭に出てお喋りを楽しんでいる。思いついたら「外の空気を吸いに行こう」と、ドライブに出掛けている。写真が趣味の利用者は、現像をするため近くのショッピングセンターへ家族に連れて行ってもらっている。	外出支援はよく行われているが、さらに増やしたいと考えている。今後は、一人ずつに合った個別支援の提供に努めたいとのこと。実施に期待を寄せる。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の要望に応じて必要な方は持っておられる (小銭のみである) ご家族との外出時に使用されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいと訴えられると子機にて電話をし、話ができるように支援している 手紙、葉書等必要に応じて支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた生け花などを飾り、居心地よく過ごせるように工夫している(利用者作の貼り絵・工作・書初めも展示) 行事、イベント等の写真の展示 空気清浄器(加湿機能付き)を活用	季節に合わせた飾り付けをしている。今回は、イースター復活祭に向け、利用者と一緒に作成した卵やうさぎが随所に飾られていた。浴槽の湯は常に清潔を保っている。毎回、洗面器や椅子等を整頓し直し、誰もが「一番風呂」の気分で入浴出来るよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを設置しており、食事以外にゆったりと座られ他の方と談笑されたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自分が使用していた物、写真や思い出の物、テレビ等を置かれ自分の生活の場を作られている	趣味を活かした部屋作りがなされている。例えば月を撮影するのが趣味の利用者は、居室に月齢が記載されているカレンダーを飾り、絶好の撮影時間に起き、窓から月を撮影している。撮影時に邪魔になる庭木も剪定している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室、トイレ、風呂場、洗面所など分かりやすいように目印、矢印にて配置に配慮している。又、トイレでの水の流し忘れ、電気の消し忘れ等もあり、貼り紙をして自立できるようにしている。		